

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会

第 10 回建設専門部会 会議概要

1 .開催日時	平成 20 年 10 月 27 日 (月) 13 : 00 ~ 14 : 30
2 .開催場所	アクロス福岡 6 階 601 会議室
3 .出席者	(正副部会長以外は五十音順) 松藤康司部会長、神野健二副部会長、嵐谷奎一委員、磯望委員、浦邊真郎委員 川本俊弘委員
	オブザーバー 福岡市 計画課係長、他 1 名 春日市 環境課長 他 1 名 大野城市 リサイクル推進課係長 太宰府市 環境課係長 那珂川町 環境防災課長
4 .欠席者	包清博之委員、村山博俊委員
5 .議 題	議題 1 スケジュールについて 議題 2 中間処理施設基本計画について 議題 3 中間処理施設生活環境影響調査について

議題 1 スケジュールについて
【協議内容】 今後のスケジュールとして、次の通り了承した。 ●建設専門部会について 今年度の今後の予定は、専門部会を第 11 回、第 12 回の 2 回開催する。内容は中間処理施設基本計画と生活環境影響調査に関する検討を行う。

議題 2 中間処理施設基本計画について
【協議内容】 ●環境基準値を設定するために現南部工場の稼働停止時に敷地境界 4 地点と工場周辺地域 2 地点の騒音・振動測定を実施し現況の把握を行う。 ●地元住民へ環境基準値について説明する際は、現南部工場建設以前から現在まで周辺地域の都市化の状況について上空写真(昭和 50 年代、60 年代、平成 20 年)を使用して説明する。 ●基本計画の内容は、施設配置、ごみ搬入車の動線、土木・建築・プラント等の基本的な計画やその他余熱利用、公害防止、コミュニティー機能計画等について検討を行っていく。 ●国(環境省)の廃棄物処理施設の温室効果ガス削減の取り組みの動向を把握し、高効率発電設備の導入についての検討を行っていく。

【協議内容】

1. 建設候補地周辺の生活環境

中間処理施設建設候補地周辺には、南東から西にかけて丘陵地や小連山が存在することから、煙突排ガスの拡散については周辺地形による影響が考えられる。

また、小連山の風下にあたる北側～東側及び煙突とほぼ同程度となる南側の丘陵地には多くの住宅が広がっている。そのため、排ガス拡散の予測は地形の影響を考慮した高度な予測手法が必要となる。

2. 現況調査の設定根拠

現況調査の項目や内容については、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」(平成18年環境省)及び「福岡県環境影響評価技術指針」(平成11年)、「福岡市環境影響評価技術指針」(平成11年)、「ごみ焼却施設環境アセスメントマニュアル」(昭和61年厚生省)をもとに建設候補地及び周辺地域の状況を考慮して設定する。

3. 調査地点及び調査頻度

調査地点は、直接的又は間接的に影響が考えられる地点又は範囲内の代表点を設定。

調査頻度は、原則として1年間連続測定又は4季の観測を行う。ただし季節変動が少ない又は代表的な時期がある場合は、特定の季節を設定する。

- 上記のことを踏まえて、現況調査の設定根拠、調査地点、頻度等について協議を行った。
このうち下記の事項については、次回の専門部会にて判断することとした。

1. 大気に関する項目について

- 環境基準(大気汚染防止法)の設定がなされている物質の調査について。
- 水質調査において当該地点の降雨量の測定の必要性について。
- 大気質の拡散予測において、降雨量の測定の必要性について。
- 大気質の拡散予測において、弱風や無風時の気象条件での予測について。
- 排煙拡散実験時の捕集範囲において、現況の風向変化の影響による測定値の信頼性について。

2. 騒音・振動について

- 建設候補地周辺の上空を飛行機が航行する際の騒音の影響把握については、事前に航行ルートや離発着等の把握を行うこととする。

3. 景観について

- 景観へ配慮した工場の外観やデザインの決定方法や手順の検討を行っていく。